



商品9時30分 原油が大幅反発、スエズ懸念や米景気期待で 金も高い

29日朝方の国内商品先物市場で原油は反発して取引を始めた。取引の中心である8月物は1キロリットル4万1840円と前週末の清算値に比べ1150円高い水準で寄り付いた。エジプトのスエズ運河で座礁した大型コンテナ船が航路を塞いでいる問題で、離礁作業に時間がかかるとの見方が広がっており、短期的な供給への懸念から買いが入っている。

座礁船を巡っては、積み荷を降ろして船を軽くするという選択肢が浮上している。市場では「コンテナを降ろすには数週間程度の時間を要するとみられ、需要家が代替調達に動くとの思惑も原油相場を支えている」（エネルギー市場に詳しいエコノミスト）との声があった。

米国での需要回復期待も、国内原油先物の買いにつながった。新型コロナウイルスのワクチン普及の加速や良好な米経済指標の結果を受けて前週末の米株式相場が上昇し、株式同様リスク資産とされる原油先物にも買いが入りやすくなっている。

石油輸出国機構（OPEC）とロシアなど非加盟の産油国で構成する「OPECプラス」は週内に会合を予定する。会合で現行の大規模な協調減産の枠組みを維持するとの見方が広がったのも、相場を支えている。

ガソリンは上昇している。中心限月の10月物は1キロリットル5万4340円と同1210円高い水準で寄り付いた。原油相場の上昇につれた買いが入った。

金は反発。中心限月の2022年2月物は1グラム6112円と前週末の清算値を41円上回る水準で取引を始めた。外国為替市場でドルやユーロなどに対して円安が進み、円建てで取引される国内金に割安感を意識した買いが入った。



シカゴ穀物概況・26日

【シカゴ支局】26日のシカゴ市場で大豆が続落した。大豆油の下げを嫌気した。来週31日に米農務省が発表する作付面積が昨年を大幅に上回るとの見方が強まり、生産増を見込む売りも出た。31日には同省の4半期在庫発表も控えており、市場には結果を見極めたいとの向きが多い。5月物終値は前日比13.75セント安の1ブッシェル=14.0050ドル。

トウモロコシは上げた。5月物終値は同6セント高の5.5250ドル。

小麦は小幅に反発した。前日まで下げた反動から買われた。ただ、米産地で雨が降り作柄改善を見込む売りも出たため上げ幅は限られた。5月物終値は同0.75セント高の6.1325ドル。



内航燃料油価格の動向 (単位:円/kg)

年度	燃料油別	A重油		適合油価格	
		価格	前期比	価格	前期比
2019年度	1~3月期	69,000	1,200	67,200	3,700
2020年度	4~6月期	46,600	▲22,400	43,400	▲23,800
	7~9月期	48,500	1,900	48,100	4,700
	10~12月期	51,700	3,200	48,000	▲100
	1~3月期	59,700	8,000	55,400	7,400

※1~3月期は伊藤忠エネクス/第一中央汽船の交渉妥結額

3月適合油5万5400円 船舶燃料油値上げ決着

エネクス

船舶燃料油の特約店伊藤忠エネクスと第一中央汽船は、2020年度1~3月期の内航燃料油の価格を決着し公表した。別表参照。両社間で合意した価格は、適合油が5万5400円で、前期比7400円高。4期ぶりに適合油は2四半期ぶりに値上がりした。また1月末に両社が大筋合意していた適合油の参考仮価格(1~3月)は5万3500円で、価格差は1900円だった。前年同期とくらべると価格は下回っているものの、割高感が増している。内航海運業界の関係者は今回の値上がりに対し「需要家は冷静に受け止めている印象だ」と話している。

製品値上げ

住化、EVAエ
マルジョン 28円

住友化学は4月1日納
入分からエチレン酢酸ビ
ニル共重合体(EVA)
エマルジョン「スマカフ
レックス」を値上げする。
改定幅は1キモ当たり28
円。製造整備の補修費が
年々増加するなか、酢酸
ビニルモノマーなどの原
料費や物流費も上昇して
いる。これらの増加費用
をすべて吸収するのは困
難と判断し、安定供給を
継続するため値上げを決
めた。

DICが可塑性

DICは4月10日出荷
分から可塑性を値上げす
る。1キモ当たりの上げ
幅はポリエステル系が34
円以上、エポキシ系が28
円以上、アジピン酸系が
31円以上、トリメリット
酸系(TOTM)が33円、
その他特殊品が30〜10
0円。原油・ナフサ価格
の上昇および、需給のひ
つ迫によって可塑性原
料である各種酸、グリコ
ール類、アルコール類が
急騰している。加えて、
物流業界の慢性的な人手
不足を背景に物流コスト
も上昇している。

コスト増加分を自助努
力で吸収するのは困難な
状況とし、今後の事業継
続を図るためには価格改
定が避けられないと判断
した。

有機顔料50〜100円

DICは4月1日出荷
分から有機顔料を値上げ
する。対象製品はアソ顔
料の一部(ジスアジエ
ロー、カミン6B)。改
定幅は1キモ当たり50〜
100円。一部の有機顔
料の原料が、中国の環境
規制強化を背景とした供
給量減少や需要増加など
で需給バランスがひつ迫
し高騰している。また、
物流費や生産コストの上
昇も継続している。こう
したコスト上昇分を自助
努力では吸収することが
困難な状況。今後の安定
供給と事業継続を図るた
めに、価格改定が避けら
れないと判断した。

ウレタン製品40円

AGC

AGCは、4月21日出
荷分からウレタン製品の
価格を改定する。ポリプ
ロピレンクリコール、ポ
リマーポリオール、ポリ
オールシステム、プレポ
リマーについて1キモ当
たり40円値上げする。原
料・ナフサ関連以外の諸
原材料価格が近年、継続
して上昇し、収益を圧迫。
海外市況も高騰し、内外
価格差が拡大しているこ
う。コスト増は自助努
力で吸収できる水準を超
えているとして、安定供
給を目的に値上げを決め
た。

OPS 28円以上

サンディック

サンディックは、4月
21日納入分から2軸延伸
ポリスチレンシート(OPS)
「サンディックシー
ト」を値上げする。改定
幅は1キモ当たり28円以
上。主原料であるポリス
チレンは、ナフサおよび
ベンゼンの高騰にともな
う値上げが打ち出されて
いる。コスト上昇分を自
助努力で吸収することが
困難と判断し、価格改定
を決めた。



サウジアラムコと協業検討 CO₂フリー水素・アンモニア 供給網構築で ENEOS

ENEOSは、サウジアラムコ（CH）を含めた水素の輸送形態を調査の対象としている。

日本は年間原油消費量の3分の1以上をサウジアラムコから輸入している。サウジアラムコがCO₂フリー水素・アンモニアの長期的な安定供給ポテンシャルをもつことから、覚書の締結に至った。

サウジアラムコが生産・供給する天然ガスやLPG由来の水素製造、製造時に発生するCO₂の回収・貯留のほか、サウジ国外の需要地に海上輸送するためのアンモニアやメチルシクロヘキサン（M

ENEOSは、事業化調査の結果に基づいて、日本への製品輸入を含め、製油所から発電所など近隣企業に水素を供給する事業を展開する計画だ。